# 令和5年度 旭区運営方針

(区長: 東中 秀成 )

「目標」「使命	「目標」「使命」及び「所属運営の基本的な考え方」				
目標	「安心して住み続けられるあたたかいまち 旭区」の実現				
使命	「安心して子育てできるまち」「やさしさあふれるまち」「活力あるまち」 「安全に暮らせるまち」の実現に向けて、「ニア・イズ・ベター」に基づく施 策・事業を展開するとともに、ムダを徹底的に排除した効率的・効果的な行政 運営に取り組む。				
令和5年度 所属運営の 基本的な 考え方	「安心して住み続けられるあたたかいまち 旭区」の実現に向けて、次の4点に重点的に取り組む。 ・子育て・教育支援等の一層の充実 ・区民一人ひとりの生活に寄り添った福祉・健康施策の推進 ・地域コミュニティの活性化とまちの魅力の向上 ・地域防災力・地域防犯力の強化				

重点的に取り組む経営課題										
経	経営課題1 子育て・教育支援等の一層の充実									
			3決算額	23百万円	4予算額	33百万	5予算額	34百万円		
・すべての子育て家庭が安心と喜びを実感しながら、るよう子育て支援を充実させる必要がある。 ・学校・家庭・地域が連携して、子どもが健やかに成力向上等の支援や、ICTを活用した学習が進む中、しみ、活用していくための学習支援が重要である。 ・経済的な要因等による生活環境の問題により、学習ない中・高生が、自らの選択によって進学等ができるた支援が必要である。						長するために、 子どもたちが 環境や生活習(	学力・体 I C T に親 貫が十分で			
	主な戦略 (課題解決の方 策)	の方 【1-2 子どもへの教育支援等】 ・学校・家庭・地域が連携した子どもの学力・体力向上等の支援やIC用した学習の支援 ・安心できる環境(居場所)において、相談支援および学習支援・生活援の実施  子育てに関する相談やサポートに満足していると答えた割合(乳幼児健認のアンケート) 令和9年度末までに85%以上						t t c c c c c c c c c c c c c c c c c c		
	アウトカム 指標 (経営課題の進捗度 合を示した指標)							見健診時の		
	アウトカム 子育		に関する相談えた割合(	或状況 ※A 談やサポート 乳幼児健診時	に満足してい	) A	前年度			
	(定量評価)			や支援を得ら 学校全10校、			小学校10校、	中学校4校		

経営課題2 区民	一人ひ	とりの生活に	こ寄り添った	福祉・健康的	施策の推進		
		3決算額	9百万円	4予算額	10百万	万 5予算額	10百万円
課題認識	暮らす	ことができ	る環境を整備	する必要がな		らしくいきいき	と心豊かに
主な戦略 (課題解決の方 策)	・生活 発 ・コロ 【2- ・福祉	]ナ禍で区民( -2 誰もが	印症の予防な の理解を得た 暮らしやすい NPO法人、7	ど医師会等で 上での地域ではあるでもの はまちづくり】 ボランティア	での自主的団体等との	に健康維持に関するな健康づくりうのネットワーク	舌動の支援
	健康啓		者の満足度の			別者へのアング	<b>ァート</b> )
アウトカム 指標 (経営課題の進捗度合を示した指標)	受けら 用者へ		なっていると ト)			DNて、相談や (障がい者福祉 <sup>・</sup>	
	うにな		感じると答え			りサポートを受り 事業参加者アンク	
	5年	度実績と達成	成状況 ※A	:達成 B:	未達成	前年度	実績
		3発事業参加 4参加者への		割合(健康 89.2	Ε Δ	88.6	5%
アウトカム 指標の達成状 況 (定量評価)	ことにように	Nのある方やこついて、相談になっている。 詳福祉サービ	淡やサポート と感じると答	を受けられる	る 章 A	65.1	%
高齢者やその家族がさまざまなことについて、相談やサポートを受けられるようになっていると感じると答えた割合(高齢者対象事業参加者アンケート) 79.9%				未測	定		
経営課題3 地域	ב≶⊏	ニティの活性	生化とまちの	魅力の向上			1
		3決算額	47百万円		53百万		53百万円
課題認識	がある • 区内	。 3外の多くの7	方に、旭区の	魅力を知って	ていただに	ニティ活動を支持 けるよう、地域 更がある。	
したイベントを実施するなど、広く発信し続ける必要がある。  【3-1 地域コミュニティの活性化促進】 ・地域団体やNPO、企業等が幅広く参画し、自律的に地域課題の解認が、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は							
アウトカム 指標 (経営課題の進捗度 合を示した指標)	が自律 へのア 令和 S	地域活動協議会の構成団体が、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態にあると思うと答えた割合(地活協の構成団体へのアンケート) 令和9年度末までに88%以上					
ロセホレだ指標)		ノト等の取組を 日度末までし		を高めること	とにつなた 	がると思う参加を	当の割合 
	·	度実績と達成		· <del>-</del> ·· -		前年度	実績
アウトカム 指標の達成状況	した地	動協議会の構 対課題の解え れている状態 は活協の構成	央に向けた取 態にあると思	組が自律的は	Ĉ.	87.2	2%
(定量評価)				89.9	%		

経	経営課題4 地域防災力・地域防犯力の強化								
			3決算額	9百万円	4予算額	11百万	5円 5予算額	14百万円	
	課題認識	食りが・員・と・連・るき・川の必公の旭、水携区犯続地地の地域の地域の地域を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表	は さい さい さい での が び での が び での が び での が び で の が び の で の が の に の の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の の に に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に に の に 。 に の に 。	でし、る化区っの必ナナ要る「「区直科い定がの、おいのでは要ったがの、おりのではあり、のではのではのではのでありがのでありがのできる。では、対集会要害。や、対集会要害。や、	のもつ強みで 共助」の意言 策本部が災害 者職員と薬剤的 がある。 時の協力協定 特殊詐欺や問 警察、その何	であった 目時にいた ままで は 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1	か、被害の拡大を 地域コンディット 自主防災組織の 5早である。 でである。 ではなる。 ではなる。 ではなる。 ではないではいる。 をはないではないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	イのつなが 更なる育成 ために区職 社避難所 者と、より 時活動に引	
	主な戦略 (課題解決の方 策)						画的配備の実施 画するための仕掛けづくり 、福祉機関などとの一層の ための直近参集職員との一 関する民間事業者との一層		
	アウトカム	に即し		防災活動を実		方災組織等	等地域主体によ <sup>、</sup>	る地域実情	
	指標 (経営課題の進捗度 合を示した指標)	区内の「大阪重点犯罪」(自転車盗を含む)発生件数 令和9年度末までに360件以下							
			)自転車交通 )年度末まで1	事故発生件数 こ72件以下					
				或状況 ※A		-	前年度	実績	
	アウトカム 指標の達成状 況	災組織 練なと	戦等地域主体に が災活動を	防災計画に基 こよる地域実 実施した地域	情に即したi 10地	川 A 域	10地	鸿	
	(定量評価)	区内 <i>0</i> 発生件		犯罪」(自転	車盗を含む) 350		318	 3件	
		区内の	自転車交通	事故発生件数	61	件 A	701	<u></u> '4	

子育て・教育について、あさひ子育て安心ネットワークを中心に見守り体制が整えられたとともに、子育て支援に関する事業に関して、対象者への浸透や認知度の高まりなど当区の取組として定着してきた。また、小学校で実施していたスポーツやプログラミングにかかる取組を中学校にも拡大し、学力・運動能力等の向上に向けて取り組んだ。

健康・福祉について、地域の健康活動においては、保健師による後方支援に取り組むなど、コロナ前の実施水準を取り戻してきた。また、福祉分野においては、関係機関と一体となってニーズに応じた支援や包括的支援体制の整備等を進めたほか、地域と連携した見守り活動を実施した。

#### 自己評価 (運営方針全体 の定性評価)

地域コミュニティ・まちの魅力について、コロナ後の地域活動の再開や自律した地域運営がさらに促進されるよう、各地域の事業や運営に関する助言・提案等の支援に努めた。また、まちのにぎわいや活気づくりを推進するものとして、地域や商店街、大学を含む地元のさまざまな方々とともに「あさひファン★フェスタ」などのイベントを開催し、まちの魅力向上に取り組んだ。

防災・防犯について、この間コロナ禍で十分に実施できなかった各地域の防災活動に関して、避難所の開設訓練や学校と協力して実施する訓練など、地域の実情に合わせた活動が活発化してきた。また、旭警察署をはじめとする関係機関と連携し、地域と協働して防犯・交通安全にかかる啓発活動や自転車対策等を着実に取り組んだ。

以上経営課題の解決に向けて総じて進捗している一方で、めざすべき将来像に対してはなお途上にあり、引き続き、各戦略や具体的取組における課題に対する対応や改善を図りながら取り組んでいく必要がある。

### 今後の方針

「安心して住み続けられるあたたかいまち旭区」の実現に向けて、戦略等の 基本的な方向性は今後も継続していく。

各取組を行っていく上では、さまざまなニーズの把握に努め、関係機関と連携しながら、真に支援が必要な方にアプローチしつつ、幅広い層がさまざまな活動等に参画できる環境を整備していく点などに留意していく。

引き続き、「ニア・イズ・ベター」の考え方に基づき、区民の安心・安全の確保や区の活性化に向けて必要な取組を推進していくとともに、さらなる区民サービスの向上や効率的・効果的な行政運営をめざし、業務改善やDXの推進等も行いながら取り組んでいく。

経営課題1

### 【子育で・教育支援等の一層の充実】









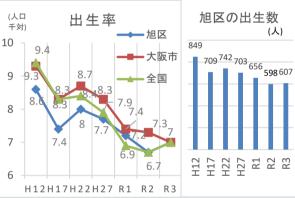
#### めざすべき将来像

「すべての子育て家庭が安心と喜びを実感しながら、子どもを生み、育てられるようなあたたかいまち」をめざして、子育て支援を充実させる。 家庭や地域、学校とともに、子どもへの教育支援等の取組を進める。

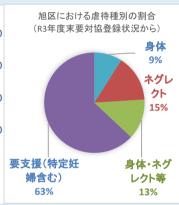
#### 現状 (課題設定の根拠となる現状・データ)

#### 【子育て支援について】

- ・旭区の令和2年度国勢調査での出生率は人口千対6.7、大阪市24区の16番目となっており、経年では減少傾向にある。出生数もR2年度は600人 を下回った。
- ・児童虐待事例は年々増加している。 ・旭区の児童虐待の特徴として、ネグレクトと要支援で91%を占めている。 ・身体的な虐待事例もほとんどが単発、衝動的な軽微なものとなっている。







#### 【子どもへの教育支援等について】

・「全国学力・学習状況調査」や「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によると、大阪市の子どもたちの学力・体力ともに全国平均を下回ってい

#### 令和4年度全国学力·学習状況調查

合計	小学6年生				中学3年	丰生
得点	国語	算数	計	国語	数学	計
全国	65.6	63.2	128.8	69.0	51.4	120.4
大阪市	64	62	126	66	50	116

#### 令和4年度全国体力·運動能力、運動習慣等調査

合計		小学5年	∓生		中学2年	∓生
得点	男子	女子	計	男子	女子	計
全国	52.28	54.31	106.59	41.04	47.42	88.46
大阪市	50.83	52.65	103.48	40.80	47.00	87.80

・平成23年度、国は国庫補助事業として「社会的な居場所づくり支援事業」を創設し、「貧困の連鎖を防止するために生活保護世帯等のこどもの学 習支援を行うなど、生活保護受給者の社会的自立を支援する取組を図る」とし、当区では平成26年度から被保護世帯を中心とした経済的課題を有 する世帯の中学校在籍児童に対して、貧困の連鎖を断ち切る根本である青少年期の学力向上、生活カアップを目的として「あさひ学び舎事業」を 実施。

- ・平成27年度、生活困窮者自立支援法施行にともない、生活困窮世帯にも対象を拡大。
- ・以降、当事業利用者の高等学校等への進学率は100%となったものの、その後高等学校等を退学している生徒がいることが判明し、平成30年度 より当事業の利用者を対象に高校中退防止のためのフォローアップ事業を追加。
- ・平成31(令和元)年度には、職業人の交流や職業体験等を通して勤労観や職業観を養い、自立心や自尊心、自己肯定感を育ませ、自らの将来を 生き抜く力を醸成させる目的として「中・高生自立育み事業」を実施。
- ・令和4年度から、学習支援・生活自立支援・居場所支援を個々の実情に合わせ利用できる「あさひ育み学び舎事業」として実施。

### 戦略1-1

# 【子育て支援の充実】

計画	自己評価		
戦略(中期的な取組の方向性) ・子育ての不安感・負担感を軽減するため、必要な支援・相談体制をつく	アウトカム指標の達成状況(定量評価) 5年度実績	達成 状況	前年度実績
り、参加や交流を促す。 ・地域担当保健師を軸とした妊娠期から乳幼児期までの総合的な育児・ 子育て支援体制を構築し、保健師を通じて区役所と親が信頼できる関係 性を持ち、子育てに関する様々な相談に対応して社会的資源に繋げてい くなどの家庭支援を推進する。	子育てに関する相談やサポートに満足していると答えた割合(乳幼児健診時の親へのアンケート) 93.2%	達成	90%
・子育て支援機関での「あさひ子育て安心ネットワーク(あさひキッズネット)」を充実させ、地域全体で子育てを支える仕組みづくりを強化することにより、「あさひ子育て包括支援システム」を構築する。	課題 すべての子育て家庭が安心と喜びを実感しながる。	5、子どもを	生み、育
アウトカム指標 (経営課題の進捗度合を示した指標)	てられるよう子育て支援を充実させる必要がある	0	
子育てに関する相談やサポートに満足していると答えた割合(乳幼児健診時の親へのアンケート) 令和9年度末までに85%以上	今後の対応方向 ・「あさひ子育て安心ネットワーク会議(あさひキッした地域全体で子育てを支える体制やしくみづくし・子育てに関する様々なニーズに応じた講座等を消に向けた取組を行う。	)を推進す	る。

## 具体的取組1-1-1 【「重大虐待ゼロ」をめざす取組】

3決算額	8,940千円 4予算額   9,388千円 5予算額   9,389千円
計画	自己評価
当年度の取組内容	当年度の取組実績
・子どもの虐待リスクの解消及び個別案件に対応するために要保護児童対策地域協議会実務者会議を月例開催する。 ・重大な児童虐待ゼロに向け、アウトリーチを基本としたあさひ子育て見守り事業を実施する。 ・「あさひ子育て包括支援システム」を確立するために次の取組を継続発展させて行く。 ①区内子育で支援機関による「あさひ子育て安心ネットワーク(あさひ	・あさひキッズネット会議(3回) ・あさひキッズネットICTページ開設(95団体参加) ・キッズカード配付数(911枚)
キッズネット)会議」を年3回開催する。 ②Web上での日常的な団体間のネットワークを強化するICTを活用し	課題
た「キッズネット『ステージ」(キッス・ネットセカン・ステージ)を推進する。 ③情報共有やアプローチ、コミュニケーションのツールとなるキッズ カードを母子手帳とともに配付し、利用を促進する。 ④大阪旭こども病院、旭区社会福祉協議会との間で締結した「子育て 地域包括連携協定」に基づく取り組みを進めていく。	・問題意識が希薄な世帯や関わりを拒否する世帯に対応するために、関係機関との連携強化や課題解決に向けた課題認識の共有を図る必要がある。 ・子育て世帯の抱える課題やニーズに対する支援等、児童虐待を未然に防ぐための効果的な取組を引き続き行っていく必要がある。
前年度までの実績	改善策
・要保護児童対策地域協議会実務者会議(3年度12回、4年度12回) ・要保護児童対策地域協議会代表者会議(3年度1回、4年度1回) ・あさひキッズネット会議(3年度2回、4年度3回) ・あさひキッズネットICTページ開設(3年度末現在61団体参加、4年度末現在89団体参加) ・キッズカード配付数(3年度883枚 4年度892枚)	・要保護児童対策地域協議会において、重大な児童虐待の防止に向け、関係機関と連携強化し、取り組む。 ・要対協登録世帯等注意を必要とする世帯や、子育てに不安を抱える世帯についても、関係機関と連携を行うとともに、早期に訪問活動等によるアウトリーチを中心とした相談支援を行い、児童虐待の防止を図る。

	( ) [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [	
		10 200
	計画	自己評価
-	当年度の取組内容	当年度の取組実績
	・地区担当保健師を軸にした妊娠期から家庭支援を推進し、ポピュ	・常設健康相談来所者数: 2,116件
	レーションアプローチとしての妊婦健診、新生児訪問、乳幼児健診等	
	を通じ、乳幼児とその保護者の心身の健康の保持等について相談支	
	援機能を強化する。(大阪市版ネウボラ)	「子育て地域包括連携協定」に基づく発達症に関する連携:35件(2
	・あさひプレパパママレッスン(男性の育児参加の促進等)を休日に開	
	催する。 ・発達障がい等の早期の気づきによる早期支援にかかる事業の強化	・授乳相談:12回開催 43組 母子86人  ・専門的家庭訪問支援事業(区独自)
	・光達障がい等の平朔の気づさによる平朔又援にかかる事業の強化 乳幼児健診、育児教室、発達相談等の他、乳幼児が集まる場での	13名(内当年度新ケース9名)  訪問延べ回数72回
	相談、電話や来所での常設健康相談等、あらゆる機会で臨床心理士	
	が保健師と連携し、さらに「子育て包括連携協定」に基づいて大阪旭	
	こども病院との連携を強化するなど発達障がい等の相談支援を行う。	
	・授乳をはじめ、妊娠、分娩の不安や悩み、家族計画等に関する助産	
	師による相談機会として、授乳ケア・育児相談事業を実施する。	
	・生後1歳になるまでの育児不安がある家庭に対して、産後ケアや助	
	産師による専門的家庭訪問を実施する。	
ı	前年度までの実績	課題
	・常設健康相談に来られた件数 3年度576件、4年度1,021件	妊娠期から出産、乳幼児期を通じた切れ目のない支援により、育児
	・ハローベビー教室 3年度10回77人、4年度15回73人	不安を解消でき、子育ての楽しさをわかってもらえるように、情報提
	・プレパパママレッスン(土曜開催) 3年度1回(14組)、4年度3回(39	と事業参加の促し、子育て支援機関との連携が図られるよう、環境
	組)	備の強化が必要である。
	・「子育て地域包括連携協定」に基づく発達症に関する連携(3年度2	
	件、4年度6件)	改善策
	·授乳相談 3年度12回開催 42組(母と乳児 計84名)、4年度12回 開催 42組(母と乳児 計84名)	プレパパママレッスンの申込時期の目安を設けて周知を行い、参加
	<sub> </sub>	やすい体制に変更。
	4 110	ホームページでの周知。
		授乳相談の対象年齢を生後1歳までに拡充。
		子育て支援室や関係機関との連携の拡充を図る。

ども食堂ネットワーク会議の開催(3年度6回、4年度5回) ・教員採用にかかる加点制度ボランティア(3年度2人、4年度1人)

| 3決算額 | 469千円 | 4予算額 | 3,397千円 | 5予算額 | 3,397千円 当年度の取組内容 当年度の取組実績 子育て中のお母さんの負担軽減やストレス解消などの各種講座を ・ベビープログラム(1回4日連続講座 4回開催 平均1回あたり10人 開催する。 ・ノーバ゙ディーズ・パーフェクト・プログラム ①ベビープログラム②ノーバディーズパーフェクトプログラム③お母 おしゃべり会に実施内容を変更し開催(5人) さんのほっとタイム お母さんのほっとタイム(5回) ・家庭児童相談員による発達障がいに関する相談支援事業や発達障 ・発達障がいに関する支援の取組 ペアレントトレーニング(1回10名) がいに関して保護者の理解を深めるためのワークショップ「ペアレント -ニング」を実施する。 さくらんぼグループ(2~3歳児)(17回×4名) ・保育士等による子育て相談支援機能を充実する。 プレさくらんぼグループ(1~2歳児)(7回×4名) ①地域サロンや乳幼児健診、窓口での子育て相談②子育て相談 子育てに関する情報発信 ール③子育て応援LINE 幼稚園・保育所(園)情報フェア(Web開催及び情報コーナー設置) ・区役所の支援事業等、保育、幼稚園、こども子育てプラザ、つどい 子育て情報誌発行(4回) 子育てわいわい広場(「みんなで子育てサロン」に形式変更し の広場などの子育て機関の情報及び子育て支援や事業、イベント等 こついての広報を広報紙・子育て応援LINE・季刊子育て情報誌を活 1回開催)/子育てLINE登録者数 926人(3/21現在)) 里親シンポジウム(映画上映、パネルディスカッション、パネル展示、 用した広報活動により、育児の孤立化を防ぐ。 ・子どもを育てる環境も準備もないまま出産するなど、多くの支援を要 こども食堂事業との共催(参加者へカレーライス無料提供)) する若年家庭の子育ての現状や課題に対し、中学生の頃から命の大 ・命の教育プログラム(出前講座) 切さと子どもを産み育てることの重大さを伝えるために子育てに関す 区内中学校3年生を対象に性教育講座(「望まない妊娠・性感染症 る啓発を各中学校において実施する。 とその予防・エイズ」」の講座を開催(1校165名) こどもの居場所づくりを進めるために「旭区こども食堂ネットワーク会 ・子どもの居場所づくり(こども食堂)に関する支援の取組 議」を通じて、各地区で開催されているこども食堂の運営主体に対し こども食堂ネットワーク会議の開催(6回) て、資材提供・ファンド等の情報共有や教材配付、ボランティアスタッ フの派遣などの支援を行う中でネットワークを強化する。 前年度までの実績 ・ベビープログラム(1回4日連続講座 3年度3回開催 平均1回あた り9人、4年度4回開催 平均1回あたり8人) ノーバディーズ・パーフェクト・プログラム(3年度コロナで未実施、4 年度1 回開催 平均1回あたり8人) 妊娠期から出産、乳幼児期を通じて、育児不安を解消し、子育ての ・お母さんのほっとタイム(3年度5回、4年度6回) 楽しさを感じられるような適切な支援が必要であり、事業に参加しや ・発達障がいに関する支援の取組 すい環境の整備や情報提供・広報の強化が必要である。 ペアレントトレーニング(3年度1回(5名)、4年度1回(10名)) ・家庭の事情や不登校等で居場所のない児童が増加しており、社会 さくらんぼグループ(2~3歳児)(3年度11回×7名、4年度18回×6名) 的資源として学校以外の地域における居場所づくりが必要である。 プレさくらんぼグループ(1~2歳児)(3年度8回×9名、4年度10回×4名) 子育てに関する情報発信 幼稚園・保育所(園)情報フェア(3-4年度Web開催) 子育で情報誌の発行(3-4年度4回)/子育でわいわい広場(3年 改善策 はコロナで未実施、4年度は「みんなで子育てサロン」に形式変更し1 子育てに関する様々なニーズに対応できるような講座等を開催し、 回開催)/子育てLINE登録者数(3年度末320人、4年度末619人) ・里親シンポジウムにてパネル展示(3年度中止、4年度実施) 育児不安を抱える子育て世帯等が参加できる機会を継続して設ける とともに、子育てLINE等によりタイムリーに情報発信を行い、より多く ・命の教育プログラム「リアルケアベビー体験学習」事業(3年度中学 の子育て世帯が参加できるよう取組を行う。 全4校、4年度4中学校中2校) ・旭区内のこども食堂に対して、学習支援やこども食堂ネットワーク会 ・子どもの居場所づくり(こども食堂)に関する支援の取組

議の開催等を行い、子どもの居場所づくりに関する支援を行う。

### 戦略1-2

# 【子どもへの教育支援等】

計画	自己評価		
戦略(中期的な取組の方向性) ・小学生及び中学生を対象として、基礎学力向上等の事業を実施する。	アウトカム指標の達成状況(定量評価) 5年度実績	達成状況	前年度実績
・区内の大学と連携してICTを活用した学習支援を実施する。 ・安心できる環境(居場所)において知識や教養、生活力を身につけ、自	区役所からの連携や支援を得られていると答え た学校 小学校全10校、中学校全4校	達成	小10校 中4校
らの選択によって進学等ができるよう、個々の実情に合わせた支援計画   を策定し、相談支援および学習支援・生活自立支援を行う。   ・支援が途切れることのないように、参加者の動向を把握する。			
文版が近めたのことのない。 かん、 がい日の知可でに注する。	課題		
	・小・中学生への教育支援について、各事業にお		
	等が取り組みやすいよう、目的は維持しつつ内容	の調整等	が必要と
	なる。 - キャル奈も学び全事業に関して、参加者の動向	について	車業老な
	・あさひ育み学び舎事業に関して、参加者の動向  はじめ、中学校等関係機関と定期的に情報交換?		
	在的に当事業を必要とする中学生が一定数いる。		
	らなる連携体制の構築が必要。	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	ω/20/( C
アウトカム指標	0.44 = 1.1 = 4		
(経営課題の進捗度合を示した指標)	今後の対応方向		
区役所からの連携や支援を得られていると答えた学校 令和9年度末までに小学校全10校、中学校全4校	・・小・中学生への教育支援について、学校等の状 ら、必要に応じて学校がより活用しやすい内容と く。	よるよう調	整してい
	・あさい育み学び舎事業について、中学校全4校は 業周知に加え、中学校も含めた関係機関と連携し きるよう協力体制の構築を行っていく。		

## 具体的取組1-2-1 【小学生の学力、体力・運動能力等向上支援】

計画 自己評価	
当年度の取組内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
・学力アップアシスト事業   【学力アップアシスト事業】	
放課後の空き教室を活用して、指導員による学習習慣の定着、つま 10校中5校で実施 登録者数341名	
【運動能力等向上サポート】 ・児童の運動能力等向上サポート事業 全10校で実施 延べ2,271名が出席	
まり方、跳び方、投げ方等や運動を楽しむための専門的な技術を 【プログラミング体験学習】	
持つインストラクターによる授業を実施し、児童の体力および運動能 全10校(小学校6年全20学級)で実施参加児童数595名	
力及び教員の指導力向上をめざす。	
・プログラミング体験学習	
小学校6年生の理科で、プログラミングの専門的な経験・技術を持つ	
区内の大学教員による授業の実施や、学習教材の支援等を行い、プログラミングへの興味や関心を高め、理解を深め、児童の学力向上	
及び教員の指導力向上をめざす。	
課題	
前年度までの実績 「学力アップアシスト事業」に関して、物理的な面や人材面での	要因に
【学力アップアシスト】 より放課後学習について取り組むことが難しい学校がある。	
3年度 10校中6校で実施 登録者数409名	
4年度 10校中6校で実施 登録者数425名	
【運動能力等向上サポート】 3年度 10校中9校で実施 延べ1,936名が出席	
■ 4年度 今10技で実施 延ぶ2.040名が出度	むして
【プログラミング体験学習】	
4年度 全10校(小学校6年全20学級)で実施 参加児童数585名	

# 具体的取組1-2-2 【中学生の基礎学力・体力向上支援】

3決算額	730千 円 4 予算額   1,860千 円 5 予算額   4,186千 円
計画	自己評価
当年度の取組内容	当年度の取組実績
・旭ベーシックサポート事業	【旭ベーシックサポート事業】
放課後の空き教室を活用して、支援員による宿題・復習サポートを	4校中3校で実施 登録者数487名
る。 •旭塾	全4校で実施 登録者数51名  【体カアップアシスト事業】
・心室   塾代助成制度を活用した民間事業者との協定事業	全4校で実施 延べ726名が出席
・体力アップサポート事業	【プログラミング体験学習】
中学校に、専門的な経験・技術を持つダンスのインストラクターを派	全4校(中学校2、3年15学級)で実施参加生徒数562名
遣し、スポーツに対する興味、関心、意欲を高め、楽しんで運動する	
機会を提供する。	
・プログラミング体験学習 中学校3年生の技術でプログラミングの専門的な経験・技術を持つ	
区内の大学教員による授業の実施や、学習教材の支援等を行い、プ	課題
ログラミングへの興味や関心を高め、理解を深め、生徒の学力向上	休恩  「体力アップアシスト事業」及び「プログラミング体験学習」は、実施初
及び教員の指導力向上をめざす。	「体力 アラファンスト・事業」及び「プロブラミング 体験子自」は、美心物   年度であったこともあり、実践を踏まえてより効果的に継続可能な事
前年度までの実績	業内容に調整していく必要がある。
【旭ベーシックサポート事業】	
3年度 4校中3校で実施 登録者数171名	
4年度 4校中3校で実施 登録者数655名	運用面で学校がより取り組みやすいよう事業者や大学とも調整を続
【旭塾】	けていく。
3年度 全4校で実施 登録者数69名	
4年度 全4校で実施 登録者数46名	

## 具体的取組1-2-3 【中学生・高校生の社会的自立に向けた支援】

3決算額	6,852千円  4予算額   6,664千円  5予算額   6,870千円
計画	自己評価
当年度の取組内容	当年度の取組実績
・経済的な要因等による生活環境の問題により、学習環境や生活習慣が十分でない中高生に対して、安心できる環境(居場所)において知識や教養、生活力を身につけ、自らの選択によって進学等ができるよう、個々の実情に合わせた支援計画を策定し、相談支援および学習支援・生活自立支援を行う。 ・基礎学力向上のために学習支援を学年別に、集団及び個別で実施する。 ・食育として日常的な自炊する力をつけるための調理実習と、参加型・ワークショップ形式のプログラムを開催し、知識や教養、生活力を身につけることをめざす。 ・他分野で活躍する職業人と接する機会を提供し、働く現場の雰囲気を感じることで情緒面の成長を促し、将来を生き抜く力を備え、自立した社会人の育成をめざす。 ・学校生活の悩みや家庭内の悩みについて、継続的に相談できる環境を整える。また参加者が落ち着いてリフレッシュしたり、参加者同士が交流できる民場所を提供する。	【あさひ育み学び舎事業】 ・登録者数:中学校1年生1名、2年生10名、3年生4名(計15名) 高校1年生3名、2年生11名、3年生5名(計19名) ・学習支援 84回、土曜自習(学習・相談)43回、調理活動10回、自立支援6回、校外学習1回    課題 ・登録中学生の数が増えたものの、潜在的に当事業を必要とする中学生を掘り起こす必要がある。そのためには、全校生徒に向けた周知に加え、子どもに関わる機関と連携し、個別のアプローチが必要である。 ・身近なところでの職業観を育む環境づくりのために、区内で協力を得られる事業所を増やす必要がある。    改善策   子どもと関わる機関と連携し、当事業への利用が望ましい中学生の
	参加につなげる。また、身近なところでの職業観を育む環境づくりの
前年度までの実績	ために、区内で協力を得られる事業所を増やす。
3年度 参加中学生13名·高校生20名 4年度 参加中学生11名·高校生26名	

### 経営課題2

### 【区民一人ひとりの生活に寄り添った福祉・健康施策の推進】







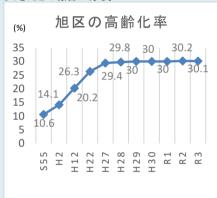
#### めざすべき将来像

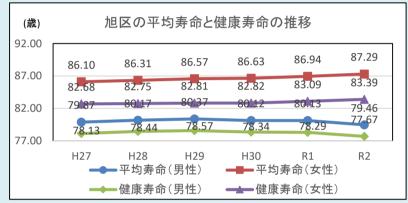
健康寿命を延ばし、一人ひとりがいきいきと地域社会の中で生活できるまちをめざす。 障がいのある方や高齢者の皆様などの居場所をつくり、誰もが自分らしく、安心してともに暮らせるまちをめざす。

#### 現状 (課題設定の根拠となる現状・データ)

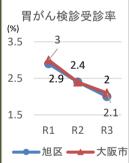
#### 【健康寿命を延ばす取組】

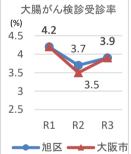
・平均寿命は増加しているが、健康寿命の延びは鈍化している。・H28年度から一般介護予防事業として、「いきいき百歳体操」の普及を全区で実施し、旭区では毎年グループ立ち上げの支援を行い、39グループとなったが、コロナ禍で活動が停止し、R4.1現在、活動を再開しているのは18グ ループに留まっている。・コロナ禍で引きこもりがちとなり、地域活動やヘルパー利用を控えるなどADL(日常生活動作)が低下している利用者が増 えてきたとの報告がある。



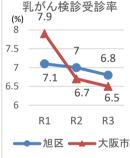


・がん検診の受診率は、今年度から令和元年度に遡って対象者を対象年齢の全人口を分母とするように変更された。このため旭区は乳がん、子宮 頸がん検診は大阪市平均を上回っており、他のがん検診も大阪市平均に近くなった。胃がん検診は令和2年度から医療機関受診のみとなり、減少 傾向が見られる。他のがん検診はR2年度はコロナ禍で、8月まで検診を中止しており減少していたが、R3年度は増加し回復した。







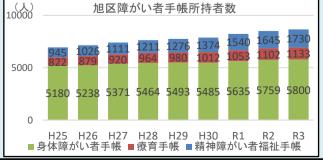




### 【誰もが暮らしやすいまちづくりのための取組】

区民アンケートにおいて下記により回答した区民の割合(%)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
障がい者をサポートする仕組みが整っていると思う・ある程度思う	64.1	62	58.6	68.9	75.8	76.5
高齢者をサポートする仕組みが整っていると思う・ある程度思う	63	61.7	58.7	69.4	71.6	69.4





### 戦略2-1

# 【人生百年時代の健康づくり】

計画	自己評価		
戦略(中期的な取組の方向性)	アウトカム指標の達成状況(定量評価)	達成	前年度
・医師会・歯科医師会・薬剤師会等区内の関係団体と協力し、健康に関	5年度実績	状況	実績
する興味・動機づけを行える催し(あさひ健康フェスタ)を開催する。・介護予防のため、「いきいき百歳体操」の新規立ち上げなど、地域における自	健康啓発事業参加者の満足度の割合(健康啓 発事業参加者へのアンケート) 89.2%	達成	88.6%
主活動を支援する。・当区実施のがん検診についてコロナ禍にあっても 感染防止に努め、1回あたりの受診枠を従前に近づける。また、広報・啓 発活動を地域や医師会と連携して進める。			
元石切と心外で四部立と足形して足ので。	課題		
アウトカム指標 (経営課題の進捗度合を示した指標)	「健康・食育フェスタ」など大規模な集客事業にお 経て事業を再開するも、引き続き感染防止対策を	講ずる必	
健康啓発事業参加者の満足度の割合(健康啓発事業参加者へのアンケート)	『実施に一部制限がかかった状態での運用となっ? 	<b>t</b> =.	
令和9年度末までに85%以上	今後の対応方向		
	感染対策を行った上で、より一層充実した内容で さらに高められるよう取り組んでいく。	実施し、健	康意識を

# 具体的取組2-1-1 【健康寿命を延ばす取組】

3決算額	57千円  4予算額   354千円  5予算額   354千円
計画	自己評価
当年度の取組内容	当年度の取組実績
・区民の健康意識の高揚を図るため、医師会・歯科医師会・薬剤師会	・あさひ健康・食育フェスタ 令和5年11月25日開催(参加者220名)
及び地域活動協議会等の各種団体と連携して健康フェスタを開催す	・いきいき百歳体操 31グループ 637人
ిం.	・認知症予防プログラム
・区民の健康寿命を延ばすため、がん検診受診について地域や医師	参加者 14名(終了9名)
会との連携のほか、区広報紙等で周知する。	自主活動グループ数 10グループ(内新規1グループ)
「いきいき百歳体操」のグループに対して、コロナ禍でも活動を継続	・健康大学 栄養コース(全9回コース) 29名(終了者26名)
できるための支援として、新型コロナウイルス感染症への対応方法等	健康増進コース(全6回コース) 31名(修了者29名)
に関する正しい知識の啓発や普及を行う。	・在宅医療介護連携事業 総会1回 分科会6回 研修会3回
・「いきいき百歳体操」普及のために健康フェスタにおいて90歳以上の 「いきいき百歳体操」参加者を表彰する。	
・嚥下障害による誤嚥性肺炎予防やその他、健康教育・啓発として地	
区健康講座を開催する。	
・在宅医療・介護連携推進会議を定期開催し、情報共有をはじめ各関	
係機関と連携するとともに地域団体など区民への啓発活動を実施す	
る。	
・健康大学を開催し、健康づくり・食育推進のリーダーを養成して、地	
域に健康のための自主管理の方法を広める。	
・認知症予防の自主活動育成を目的とした「地域型認知症予防プロ	
グラム」を実施し、自主活動支援を行う。	
前年度までの実績	課題
・あさひ健康フェスタ 3年度コロナ禍で中止 4年度開催	・いきいき百歳体操について、コロナ禍の影響により、グループ間の
・いきいき百歳体操 グループ数: 3年度39G、4年度34G	交流機会が減少している。
参加者数: 3年度250人、4年度547人	・いきいき百歳体操のサポーターが高齢化しており、後継者が不足し
・認知症予防プログラム修了者(継続グループ数及び人数)	ている。
3年度2グループ15人、4年度3グループ22人	改善策
-在宅医療介護連携事業 3年度 総会1回 分科会8回 研修会1回 4年度 総会1回 分科会7回 研修会1回	<u>(以 声 東</u>   いきいき百歳体操のサポーター交流会を開催し、グループ間の交流
・健康大学 栄養コース(全10回コース) 3年度8人、4年度11人	「ためるともに、活動拠点について広く周知啓発するよう取り組む。
健康增進3一人(全6回3一人) 3年度6人、4年度11人 健康増進3一人(全6回3一人) 3年度11人、4年度8人	を図ることでは、冶動拠点について広く同な合発するよう取り組む。    また、令和5年度から開催しているサポーター養成講座を継続して実
には名だ。ハイエロロー ハ/ ロー及口八、十十及0八	施する。
	70 V 00

### 戦略2-2

# 【誰もが暮らしやすいまちづくり】

計画	自己評価					
戦略(中期的な取組の方向性)	アウトカム指標の達成状況(定量評価)	達成	前年度			
複合的な課題を抱えた人や地域から孤立しがちな人等の対応の難しい	5年度実績	状況	実績			
ケースが増加している中、福祉・医療関係機関及びNPO法人等と一体となってニーズに応じた支援、包括的支援体制の整備、地域づくりに努めるとともに、地域住民の協力のもと日常の見守りや支援の体制を整える。また、支援が必要な方に対する理解促進に向けて地域住民への啓発を実施する。	障がいのある方やその家族の方がさまざまなことについて、相談やサポートを受けられるようになっていると感じると答えた割合(障がい者福祉サービス利用者へのアンケート)71.1%					
アウトカム指標	高齢者やその家族がさまざまなことについて、 相談やサポートを受けられるようになっていると 感じると答えた割合(高齢者対象事業参加者ア ンケート)79.9%					
(経営課題の進捗度合を示した指標)	課題					
障がいのある方やその家族の方がさまざまなことについて、相談やサポートを受けられるようになっていると感じると答えた割合(障がい者福祉サービス利用者へのアンケート) 令和9年度末までに70%以上	支援を必要とするすべての人に必要な支援を行き 係機関等とのさらなる連携が重要である。	を届けるため	めに、関			
高齢者やその家族がさまざまなことについて、相談やサポートを受けられるようになっていると感じると答えた割合(高齢者対象事業参加者アンケート)令和9年度末までに75%以上	今後の対応方向 住民や地域、関係機関へより一層の周知・啓発を ことができるような取組を行う。また、各関係会議 識を共有し、課題を抱える世帯が支援につながる 組を行う。	において情	報や意			

# 

兵体的政権と一と一「証むが治難できる任祖の ブマッの推進」						
3決算額	724千 円 4予算額 759千 円 5予算額 1,279千 円					
計画	自己評価					
当年度の取組内容	当年度の取組実績					
・旭区地域自立支援協議会において、防災をテーマとして障がいのある方への配慮内容を検討しており、障がい当事者や障がいサービス事業者と、地域の防災リーダーなどの関係者との、地域における接点づくりを働きかける。 ・障がい者福祉事業所の授産製品の物販や、作品展示等の場を提供し、障がい当事者の社会参加や自立促進、地域活動の周知・啓発を行う。・「障がい者週間」(12月3日~9日)にあわせて開催される座談会のほか、区の広報媒体や障がい者スポーツ振興の取組等を通じて、障がい者福祉に関する理解を深める啓発活動を行う。	・地域の防災訓練に福祉事業所が参加 2地域 ・庁舎内及び「あさひあったかサテライト」での授産製品の物販支援 庁舎内月2回(計23回)、サテライト月1回(計12回) ・ユニバーサルスポーツに係る体験会 2回 ・旭図書館にて障がい者スポーツ関連書籍の紹介 1回 ・和んで座談会の開催 1回 ・就学・進学なんでも相談会の開催 11回 ・子育て応援セミナーの開催 1回 ・「障がい者週間」(12月3~9日)の啓発活動					
前年度までの実績	課題					
前年度までの実績 ・旭区地域福祉計画(R2~6)の中間評価 4年度 ・庁舎内及び「あさひあったかサテライト」での授産製品の物販支援 3年度 庁舎内月2回、サテライト月1回(一部の期間は中止) 4年度 庁舎内月2回、サテライト月1回 ・授産製品の物販支援満足度 3年度 95.8%、4年度95.0%	課題 ・災害時の支援体制の整備は、区全体で連携して取組を進めるとともに、地域と事業所等の顔の見える関係づくりが重要である。・障がいのある方の社会参加や自立促進のほか、障がい福祉に関する理解促進をより一層進めることが重要である。					
・旭区地域福祉計画(R2~6)の中間評価 4年度 ・庁舎内及び「あさひあったかサテライト」での授産製品の物販支援 3年度 庁舎内月2回、サテライト月1回(一部の期間は中止) 4年度 庁舎内月2回、サテライト月1回	・災害時の支援体制の整備は、区全体で連携して取組を進めるとともに、地域と事業所等の顔の見える関係づくりが重要である。 ・障がいのある方の社会参加や自立促進のほか、障がい福祉に関す					

## 具体的取組2-2-2 【誰もが安心して暮らせる仕組みづくりの推進】

3決算額	446千 円 4予算額   722千 円 5予算額   838千 円				
計画	自己評価				
当年度の取組内容	当年度の取組実績				
・電子媒体、高齢者福祉サービス関係機関、医療機関(病院、薬局等)及び郵便局等を通じて、高齢者の介護や福祉に関する相談機関や各種福祉サービス制度等の周知を行う。 ・9月の高齢者福祉月間にあわせて、広報あさひ特集号で高齢者の介護や福祉に関する相談機関や各種福祉サービス制度等の周知を行う。 ・高齢者等の支援が必要な方が地域で安心して暮らせるよう、見守りのツールとしての「お守りカード」・「旭区認知症安心ガイド」を電子媒体及び高齢者福祉サービス関係機関や医療機関(病院、薬局等)を通じて区民に配布するほか、見守りネットワーク強化事業により、区全体で「ゆるやかな見守り」が行われるよう取り組む。	・広報あさひ9月号に高齢者福祉月間特集記事掲載 ・広報あさひに相談機関の紹介記事を掲載(6月・7月・2月) ・「旭区認知症安心ガイド」改訂・配布・配架・区HP掲載 ・「お守りカード」配布・配架・区HP掲載 ・「障がい者施設紹介冊子」配付・区HP掲載 ・「8050問題に係る啓発チラシ」配布 ・新聞販売に見守り協定内容の再周知 ・事業者を対象に精神疾患に関する研修を実施(1回) ・区職員を対象に社会的つながりが希薄な世帯の支援に関する研修 の実施(2回) ・区職員を対象に認知症サポーター養成講座の実施				
前年度までの実績	課題				
・3年度 広報あさひ9月号に高齢者福祉月間特集記事掲載 「旭区認知症安心ガイド」改訂・配布・配架・区HP掲載 「お守りカード」配布・配架 ・4年度 広報あさひ9月号に高齢者福祉月間特集記事掲載 「旭区認知症安心ガイド」改訂・配布・配架・区HP掲載	支援が必要な方が安心して暮らしていくためには、必要とする情報 (相談機関や福祉制度等)を確実に届けて理解してもらうことが重要 となる。また、地域や関係機関・事業者等と連携した見守りネットワー クのさらなる拡充が重要となる。				
「お守りカード」配布・配架	改善策				
「障がい者施設紹介冊子」作成、配付・区HP掲載 「8050問題に係る啓発チラシ」作成、配布	・必要な方に確実に情報を届けて、内容を理解いただけるよう、広報物の見せ方や発信の仕方を工夫する。 ・地域における見守り活動を支援するとともに、より一層効果的な方法により見守りネットワークの拡充につながる取組を行う。				
	יייייייייייייייייייייייייייייייייייייי				

## 具体的取組2-2-3 【「あさひあったかバス」(旭区福祉バス)の運行支援】

3決算額	7,700千円   4予算額   7,800千円   5予算額   7,800千円				
計画	自己評価				
当年度の取組内容	当年度の取組実績				
高齢者等に対する区内交通アクセスの確保を目的とした補助事業を 継続する。	区内交通アクセス確保のため、バス路線運行に必要な経費の一部の 補助をおこない、年間を通じてバス運行を行った。(1日あたり10便) 乗車人数約6,880人/月(4年度は約6,840人/月)				
前年度までの実績	課題				
平成25年度から「あさひあったかバス」を運行 2年度 乗車人数約5,500人/月 3年度 乗車人数約6,300人/月	交通アクセスの利便性向上にかかる視点が求められている。				
0十及 米十八级师10,000八/ //	改善策				
	引き続き、区内の移動に関するニーズ等に留意していく。				

### 経営課題3

### 【地域コミュニティの活性化とまちの魅力の向上】













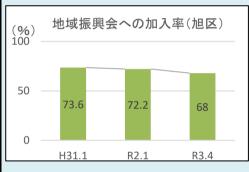
#### めざすべき将来像

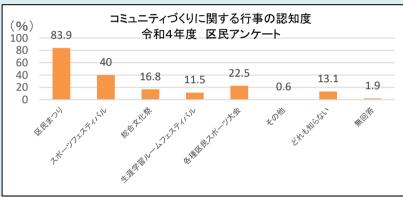
豊かなコミュニティがさらに強まるよう、区民の自律的な地域運営を支援し、地域活動が活発なにぎわいあるまちづくりの取組を進める。 区民の皆様がまちへの愛着をさらに深めていただけるまちをめざす。また、区民の皆様と共に、新たな魅力を創り出しながら、にぎわいと活気のあるまちをめざす。

#### 現状 (課題設定の根拠となる現状・データ)

#### 【地域コミュニティについて】

- ・平成24年度末に区内全小学校下に形成された地域活動協議会については、地域一体となって組織運営がなされていることに加え、広報活動によ い活動内突や組織・全計情報の発信等により添用性が確保されるなど、自律的な地域運営に努められている。
- り活動内容や組織・会計情報の発信等により透明性が確保されるなど、自律的な地域運営に努められている。 ・地域振興会(町会)加入率は直近の調査結果を比較するとゆるやかに減少しているものの、他区よりも高い状況にあり(令和3年4月1日現在68.0%)、伝統ある行事の開催、子どもや高齢者の見守りなど地域コミュニティの継続性が図られている。
- ・コミュニティづくりに関する行事の認知度については、令和4度区民アンケートによると、「区民まつり」は83.9%と高く、広く区民に知れ渡っている行事があるものの、行事によってばらつきがある。





### 【まちの魅力を高める取組について】

- ・城北公園・城北菖蒲園、淀川、城北ワンドなどの地域資源を有しており、とりわけ城北菖蒲園が開園している時期には区外からもたくさんの方が 旭区を訪れている。
- ・区内にある地域資源や店舗等を「旭区ブランド」「旭わがまちお宝」として認定し、ホームページ等で公開しているほか、ブランド・お宝を活用したイベントを実施している。

#### 戦略3-1

### 【地域コミュニティの活性化促進】

計画	自己評価			
戦略(中期的な取組の方向性)	アウトカム指標の達成状況(定量評価)	達成	前年度	
・地域団体やNPO、企業等地域のまちづくりに関する様々な活動主体が	5年度実績	状況	実績	
幅広く参画し、民主的で開かれた組織運営と会計の透明性を確保しながら地域運営に取り組む活動を積極的に支援するため、自律的に地域課題の解決に取り組む地域活動協議会の運営支援に取り組む。 ・生涯学習関連団体や区民ボランティア、社会教育関係団体等と連携した取組を進める。	が 地域活動協議会の構成団体が、地域特性に即 した地域課題の解決に向けた取組が自律的に 達成 進められている状態にあると思う割合(地活協			
	-mor			
アウトカム指標	課題			
(経営課題の進捗度合を示した指標) 地域活動協議会の構成団体が、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態にあると思うと答えた割合(地	・コロナ禍において地域コミュニティのつながりの希薄化が進んだ。 ・地域活動従事者の高齢化等により、地域活動の担い手不足が生じている。			
活協の構成団体へのアンケート)	今後の対応方向			
令和9年度末までに88%以上	地域活動に参加したことのない人を呼び込むことができるようなイベント等の実施に係る支援を行い、地域活動に興味を持ってもらうことで活動の新たな担い手の発掘につなげることができるよう、引き続き支援に努める。			

## 具体的取組3-1-1 【地域活動協議会による自律的な地域運営の促進】

「大学の   「「「「」」   「「「「」」   「「「」」   「「「」」   「」」   「」」   「「」」   「」」   「「」」   「「」」   「「」」   「					
3決算額	29,075千 円   4予算額   31,672千 円   5予算額   32,328千 円				
計画	自己評価				
当年度の取組内容	当年度の取組実績				
・区内の全10地域活動協議会が、防犯・防災、子ども・青少年、福祉、健康、環境及び文化・スポーツの分野において、広く住民全般を対象	・アフターコロナの活動実施に関わって助言・提案等を実施し、各地域の活動再開に向けた支援を行った。				
として行う事業(夏祭り、運動会、見守り活動、夜警、防犯灯維持管	・地活協補助金の適切な執行のための助言、提案を行うとともに会計				
理事業、広報事業、憩の家管理事業、防災訓練等、ふれあい喫茶・スネズサロ、「素魚性和」(シロ・リング表表の裏サービス事業) かかば	事務に関する支援を実施した。				
子育てサロン、青色防犯パトロール活動、食事サービス事業)や地域 活動協議会の運営等(組織運営・会計支援)に関するアドバイスを実	・地活協従事者向けの情報交換会を開催し、各地域の活動内容の共 有や意見交換の場を提供した。				
施する。					
前年度までの実績					
・全10地域活動協議会が、防犯・防災、子ども・青少年、福祉、健康、					
環境及び文化・スポーツの分野において広く住民全般を対象として行	課題				
う事業は、3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ほと	地活協構成団体アンケートの回答状況をみるに、区の支援内容の周				
んどが中止または休止となった。4年度は感染症対策を徹底のうえ、 一部事業を除き再開された。	知を必要としている団体がある。				
・地域活動協議会の構成団体が、地域活動協議会に対し地域の実情					
やニーズに即した支援が実施されていると思う割合 83.6%(3年	改善策				
度)、85.3%(4年度)	地活協構成団体により、区の支援内容に関する認知度に差があるこ				
・地域活動協議会の運営等(組織運営・会計支援)に専念してアドバイスを行う会計年度任用職員2名の配置(平成29年度~)	とから、効果的な周知に努めるとともに聞き取り調査等を通じて各地				
10で117公司千度は用職員2つの配置(十成29千度で)	域のニーズを把握し、適切な支援に努めていく。				

# 具体的取組3-1-2 【スポーツ・文化等によるコミュニティの育成】

3決算額	│ 8,246千 円   4予算額   8,710千 円   5予算額   9,265千 円
計画	自己評価
当年度の取組内容	当年度の取組実績
旭区におけるコミュニティづくりを一層推進し、地域の各種団体と協働して、コミュニティ活性化のための各種催しを企画・実施する。 ・区民まつり、スポーツフェスティバル、各種スポーツ大会区民が中心となった文化芸術を通じたコミュニティを育成するための取組を実施する。 ・区民の文化芸術活動の発表の場としての「旭区総合文化祭」を開催 ・文化芸術を通じた区民のコミュニティの拠点として「旭区文化芸術振興連絡会」を運営	・区民まつりの開催(参加者数:約33,000名) ・スポーツフェスティバルの開催(参加者数:約1,000名) ・旭区総合文化祭の開催(参加者数(延べ):約750名(映画まつり約50名、子どもお祭り広場約300名、文化芸術発表会約400名)
前年度までの実績	課題
・区民まつりの開催 3年度 中止(特設サイト作成) 4年度 中止 ・スポーツフェスティバルの開催	催しにより認知度に大きな差があることから、全体的に認知度が向上 するよう効果的な広報活動に取り組む必要がある。
3年度・4年度ともに中止(代替事業としてスリーアイズ大会を開催 (参加者数 3年度約50名(8チーム)・4年度約100名(8チーム)) ・区民総合文化祭の開催 3年度 参加者延べ961名 4年度 参加者延べ約540名(映画まつり約50名・子どもお祭り広場約240名・文化芸術発表会約250名)	改善策 引き続き、各種催しの広報について、区ホームページ・区広報紙等に加え、SNSの積極的な活用等、効果的な広報活動に努める。

## 【生涯学習の推進】

	3決算額	336千 円	4予算額	1,174千 円	5予算額	1,174千 円
計画				自己評価		
当年度の取組内容		当年度の取締	組実績			
生涯学習関連機関・区民ボランティア・社会教育関係団体	*等と連携し	•生涯学習推進	<b>進員旭区連絡</b>	会の開催(12回	1)	
た事業を実施する。		・生涯学習ルー	-ム事業の実活	施(全10小学校	た)	
・関係施設・生涯学習推進員との連絡会の開催		・生涯学習ルー	-ムフェスティ	バルの開催		
・各小学校下における生涯学習ルーム事業の実施						
		課題				
前年度までの実績		より幅広い年齢	高層へのPRを	充実させる必要	要がある.	
・生涯学習推進員旭区連絡会の開催(3年度7回、4年度	11同)	O THE	1171 VOT 1112	70,700 0 0 20 3	270 05 00	
・生涯学習ルーム事業の実施(3年度・4年度10小学校下						
・生涯学習ルームフェスティバルの開催(3年度中止、4年		小羊华				
工程子自ルーコンエババイバルの内間に(〇十尺イ 正、中中	-/ <b>Z</b>   E	改善策	***	++0.2% (= + + +	7 5 11 7	
		ホームページ	等を活用して作	育報発信を允美	ぎさせる。	

# 具体的取組3-1-4 【人権施策の推進】

3決算額	3,508千円 4予算額 3,976千円 5予算額 4,120千円		
計画	自己評価		
当年度の取組内容	当年度の取組実績		
「大阪市人権尊重の社会づくり条例」に基づき、人権尊重の明るい社会づくりを目指し、事業を実施する。 ・人権・生涯学習情報紙「じんけんあさひ」の発行・ふれあいシアターの実施・大阪市人権啓発推進員 旭区連絡会の開催・にほんご教室の開催・人権相談の実施	・「じんけんあさひ」の発行(12月) ・ふれあいシアターの開催(12月) ・大阪市人権啓発推進員旭区連絡会を開催(連絡会5回/研修会1回) ・にほんご教室を開催(44回) ・人権相談窓口の周知・活用  課題  人権啓発推進員による啓発活動を充実させる必要がある。		
前年度までの実績			
・ふれあいシアターの実施(3年度・4年度各1回)	改善策		
・「じんけんあさひ」の発行(3年度・4年度各1回) ・大阪市人権啓発推進員旭区連絡会の開催(3年度、4年度) ・にほんご教室の開催(3年度、4年度)	啓発活動の効果的な手法検討と情報発信を行っていく。		

### 戦略3-2

# 【地域資源を活用したまちの魅力づくり】

計画	自己評価				
戦略(中期的な取組の方向性)	アウトカム指標の達成状況(定量評価)	達成	前年度		
旭区には、城北公園や商店街、歴史や音楽などの様々な地域資源があ	5年度実績	状況	実績		
の方に、旭区の楽しさや住みやすさを実感していただけるよう、まちの魅 ┏️	イベント等の取組が旭区の魅力を高めることに つながると思う参加者の割合 95.0%	達成	95.6%		
力向上に取り組む。					
アウトカム指標	課題				
(経営課題の進捗度合を示した指標)	城北公園や商店街、歴史等のまちの魅力を通じて	て、人と人と	<b>こ</b> のつな		
割合	がりをより一層引き立て、区民の皆様とともに、まちのにぎわいや活 気づくりをさらに進めていく必要がある。				
令和9年度末までに80%以上	今後の対応方向				
	活発な区内の交流の和を広げ、新たなつながりを 全体の魅力を高めていく。	増やしなが	がら、まち		

### 具体的取組3-2-1 【まちの魅力を高める取組】

3決算額				
計画	自己評価			
当年度の取組内容	当年度の取組実績			
〇城北公園等の地域資源を活用し、区民の皆様と共に、にぎわいや	・魅力ある城北公園で楽しむにぎわいイベント 1回(あさひファン★			
活気を創り出すイベント等に取り組む。	フェスタ)			
〇人と人との多様なつながりを生み出し、区内の交流を活性化してい	・音楽を通じたにぎわいイベント 2回			
くため、まちの魅力を再発見しながら広くPRする。	(音楽の祭日2023inあさひ、第18回 旭ミュージックフェスタ2023)			
〇区民の皆様と商店街との結びつきが一層深まるよう支援する。ま	・あさひ、だいすき♪『旭区検定』の実施 1回			
た、当区の商店街が元気で、親しみやすいことを、区内外の多くの方	・旭区ブランドの認定と活用			
に広報していく。	お宝23件、			
〇大学や大学生と連携した取組を行う。	6月(あさひファン★フェスタ)や11月(あさひわくわく♪キーワード			
・魅力ある城北公園で楽しむにぎわいイベント	ラリー!)のイベント、YouTubeで活用			
・音楽を通じたにぎわいイベント	・区の魚(イタセンパラ)の保全活動 1回、PR 33回			
・あさひ、だいすき♪『旭区検定』の実施	・公の無(イメセンバブ)の保主活動 「固、FR 33回    ・小学校での花菖蒲栽培 8校参加			
・旭区ブランドの認定及び活用	・か子校 Cの化資用栽培 6枚参加			
・区の魚(イタセンパラ)の保全活動及びPR	・大阪工業大学との連携事業の推進 10件			
・小学校での花菖蒲栽培	「八阪工未入于この圧防事未の推進」の行			
・商店街や地域などのイベントの広報				
・大阪工業大学との連携事業の推進				
「八阪工术八十〇の圧防事業の推進				
前年度までの実績	課題			
・魅力ある城北公園で楽しむにぎわいイベント	区民や地域の皆様、商店街等のご意見をふまえ、コロナ禍で得た創			
3年度実施なし、4年度1回	意工夫も活かしながら、にぎわいづくりの取組を充実させていく必要			
・商店街や地域などのイベントの広報	がある。			
3年度2回、4年度22回				
・旭区ブランドの認定				
3年度 ブランド1件、お宝6件	加 <u>羊华</u>			
4年度 お宝27件、6月・11月のイベント、YouTubeで活用	ひ善策			
・区の魚(イタセンパラ)保全活動 3年度実施なし、4年度1回	「あさひファン★フェスタ」や「あさひわくわく♪キーワードラリー♪」等			
PR 3年度7回、4年度27回	の取組について、徐々に規模の拡大などに取り組んでいく。			
・小学校での花菖蒲栽培 3年度8校参加、4年度7校参加				
・音楽を通じたにぎわいイベント 3年度実施なし、4年度2回				
・あさひ、だいすき♪『旭区検定』の実施 3年度、4年度				
・大阪工業大学との連携事業の推進 3年度2件、4年度9件				

### 経営課題4

### 【地域防災力・地域防犯力の強化】





#### めざすべき将来像

地震や台風、火災、河川氾濫等による災害の発生や被害の拡大を、自主防災組織の活動、取組により、最小限にくい止めることができる地域防災 体制を確立するとともに防災意識の高いまちづくりをめざす。

関係機関や地域と協働し、犯罪や交通事故のない安全で安心して暮らせるまちづくりをめざす。

#### 現状 (課題設定の根拠となる現状・データ)

#### 【防災体制の充実について】

・南海トラフ巨大地震による旭区の被害想定(平成25年度)

		(区内約25,000棟の内、全壊4,573棟、半壊7,867棟)
		(死者21人、重傷者311人、負傷者1,218人)
要救助者	3,244人	(建物被害80人、津波被害3,164人)

・上町断層帯地震による旭区の被害想定(平成18年度)

建物被害	16,392棟	(区内約25,000棟の内 全壊:12,257棟、半壊:4,135棟)
人的被害	1 556 1	(建物被害によるもの:死者404人、負傷者623人)
	(火災被害によるもの:死者82人、負傷者447人)	

- ・淀川が氾濫した場合の新しい洪水浸水想定(平成29年6月の国土交通省淀川河川事務所公表資料)では、最大規模の想定で区内市街地のほぼ 全域(約5.2km2)が浸水し、平均深さ約2.4m(最大深さ約7.2m)の浸水が予測されている。
- ・旭区は昭和55年以前木造住宅密度が全国で5番目に高い地域である。《平成19年の中央防災会議公表資料》
- ・これまでに区内各校下への大型粉末消火器の導入(令和4年度末で区内104か所に配備)や地域防災リーダーを中心とした初期消火体制を構築している。
- ・本市の備蓄物資については、「大規模災害時における救援物資に関する今後の備蓄方針(大阪府域救援物資対策協議会令和2年9月改定)」に 定められた11品目の物資を基本としながら、国や大阪府などが定める避難所運営等にかかる各種ガイドラインや取組指針など踏まえ、避難所運営 に必要な備蓄物資を定めるとともに、市民や事業者による自助、共助の備蓄についても避難生活における必要物資の備蓄を促進することとなって いる。
- ・令和4年度より「避難行動要支援者個別避難計画」作成後地域と共に更新作業を行っていく。

### 【防犯・交通安全啓発について】

- ・街頭における主な犯罪発生状況 令和4年343件
- うち約56%が自転車盗(191件、前年比+34件)、約10%が特殊詐欺
- •区内交通事故発生状況 令和4年138件
- 死傷者数159人(うち死者0人)、事故のうちの50.7%が自転車関連(70件)

【防犯・交通安全啓発について】

・区民の防犯・交通安全に対する意識は総じて高いが、隅々まで浸透しているとは言えない状況にある。

#### 戦略4-1

### 【地域コミュニティの強さを活かした自助・共助によるまちづくり】

計画	自己評価		
戦略(中期的な取組の方向性)	アウトカム指標の達成状況(定量評価)	達成	前年度
・地域ごとの特性や熟度に応じた防災体制づくりを進める。	5年度実績	状況	実績
意識の啓発を進めるとともに、必要な防災物資の配備を計画的に実施す	区内各地域の地区防災計画に基づき、自主防 災組織等地域主体による地域実情に即した訓 練など防災活動を実施した地域 10地域	達成	10地域
アウトカム指標	課題		
(経営課題の進捗度合を示した指標)	今後も持続的に活動を行うためには、次代の担い	\手の育成	が課題と
区内各地域の地区防災計画に基づき、自主防災組織等地域主体による 地域実情に即した訓練など防災活動を実施した地域	なっている。		
令和9年度末までに10地域	今後の対応方向		
	より参加しやすい防災訓練の実施など、新たな層 境整備を推進する。	の参画に	向けた環

	夬算額	7,282千 円	4予算額		5予算額	9,448千 円
計画		V/ <del>/</del>	- 4D - 4+	自己評価		
当年度の取組内容		当年度の即	X組実績			
○防災啓発 地域での防災講座(出前講座)、広報紙、ホームページ等による 啓発を実施する。 ○防災訓練・研修 ・自主防災組織及び地域防災リーダーの育成、区職員の防災のための実践型の訓練や研修を実施する。 ・地区防災計画に基づく地域防災訓練の際に、医療関係者とによる「トリアージ訓練」や避難行動要支援者個別避難計画に起すが表する。 ○「旭区防災教育事業」の実施・大阪公立大学と連携した防災教育プログラムの作成などにより、大阪公立大学と連携した防災教育プログラムの作成などにより、中学生を対象に防災教育を実施する。 ・小学校、地域、地域防災リーダー等と連携し、土曜日授業等災関係プログラムを実施する。 ・小学校、地域、地域防災リーダー等と連携し、土曜日授業等災関係プログラムを実施する。 ○防要な防災拠点の整備・充実を図ることにより、地域り組む・呼がい者や女性の視点を踏まえた避難所運営等を小・中野が、組織等と連携し取組む。 ○地域や関係機関等との連携 避難行動要支援者(災害時要援護者)の支援、空家等対策・主防災相談自然を開発との連携 避難行動事業者との災害時連携や協定締結等の取組を推進〇初期消火体制の維持大型粉末消火器の使用方法の周知を図る。 ○空家籍試員による空家相談会の開催により、多くの相談者を認していて、財産管理制度を活用し、着望を記述していて、財産管理制度を活用し、着望は、おりによる空家について、財産管理制度を活用し、着望は、おりによる空家について、財産管理制度を活用し、着望は、おりにより、ありにより、ありにより、ありによりにより、ありによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりにより	る カの沿 よ に 害。校 関す 実 空災 上 携た 区 防 策 自 機。 是 퀾	○・・10・・・○・○・・・○・・○・・○・・○・・○・・○・・○・・○・・○・・○・・	い、 い、 い、 い、 い、 い、 が、 が、 神が、 は、 で、 は、 で、 は、 は、 は、 で、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	連携訓練 1回 との連携訓練 1回 ラム海 100 ラム施 100 カカラ カカラ 100 カカラ 100 カカラ 100 東 100 カカラ 100 東 100 東 100 日 100 日 100 日 100 日 100 日 100 日 100 日 100 日 100 日 100 日 100	R発 10月号 - クショップ 21  グショップ を各材 1回 中学校 (	財仮設トイレ、 プルコール消 件
正を図る。 前年度までの実績 〇防災啓発 ・防災啓発講座 3年度 2回(受講者延べ40人)	:			ご高齢の方の害 D幅広い層の参		
4年度17回(受講者延べ435人) ・広報あさひ「防災特集号」による防災啓発(3年度10月、4年月) ・地区防災計画(地域ごとの冊子)の配布(2年度3地域、3年域) 〇防災訓練 ・避難所開設訓練を含む防災演習・ワークショップ (3年度6回、4年度23回、4年度23回、4年度3校下、4年度6回、4年度3校下、4年度6回、4年度3校下、4年度6回、4年度1回)・区職員防災訓練の実施 区医師会との連携訓練(3年度1回、4年度1回)・区職員(避難所担当)の地域の避難所開設訓練への参加(3年度・4年度なし) ・防災拠点の整備・充実 ・備蓄物資等の資器材、カセットガス式発電機、災害用仮設した日投光器、荷物搬送用ワゴン、避難所間仕切り、コロナー対策用物品(アルコール消毒液、非接触型体温計等)を配年度~) 〇地域や関係機関等との連携 ・地域防災担当者合同連絡会の開催(3年度7回、4年度7日(4年度7日、4年度7日、4年度7日、4年度7日、4年度7日、4年度7日、4年度7日、4年度7日、4年度7日、4年度7日、4年度7日、4年度7日年末7日(4年度7日、4年度7日年末7日(4年度7日年末7日(4年度7日年末7日(4年度7日年末7日年末7日(4	手度 7地 (2) (2) (2) (4) (2) (4) (4) (5) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	もに、体験型	訓練を取り入	て、SNSを通じて れるなど訓練内 づくりの支援に耳	容を工夫する	

### 戦略4-2

# 【地域防犯力の強化】

計画	自己評価		
戦略(中期的な取組の方向性)	アウトカム指標の達成状況(定量評価) 達	屋成 前年度	
・防犯パトロール活動や防犯啓発を実施するとともに、区民による防犯ボ	5年度実績	大況 実績	
安全で安心なまちづくりの取組を進める。特に防犯カメラの計画的な設置や自転車盗対策の強化について、警察署等と連携しながら重点的に取り組む。 ・交通マナーの向上や、「交通事故をなくす運動旭区推進本部」による交通事故をなくす取組、放置自転車・自転車のマナーアップの取組を継続し、安全で安心して暮らせるまちづくりの取組を進める	区内の「大阪重点犯罪」(自転車盗を含む)発生 件数 350件 達	達成 318件	
		<b>達成</b> 70件	
	課題		
	区内の「大阪重点犯罪」(自転車盗を含む)発生件数は、目標を達成しているものの、前年度に比べて1割程度増加している。		
アウトカム指標			
(経営課題の進捗度合を示した指標)			
区内の「大阪重点犯罪」(自転車盗を含む)発生件数	今後の対応方向		
令和9年度末までに360件以下	今後も目標を達成できるよう、防犯パトロール活動や「	防犯啓発などの	
区内の自転車交通事故発生件数 令和9年度末までに72件以下	取組を継続する。		

# 具体的取組4-2-1 【防犯・交通安全の対策】

「				
3決算額	1,730千円 4予算額 2,914千円 5予算額 4,848千円			
計画	自己評価			
当年度の取組内容	当年度の取組実績			
○防犯対策	〇防犯対策			
・青パト車による青色防犯パトロールを実施する(200回)。	· 青色防犯パトロール (86回)			
・地域、警察、関係団体等と連携し、「withコロナ」を踏まえた「非接触	・子どもの安全巡回パトロール(216回)			
型啓発」などの手法による街頭啓発等を実施する。	・地域、警察、その他関係団体と連携した防犯啓発(51回)			
・区民の自転車マナーの向上や特殊詐欺や自転車盗をはじめとする	•防犯教室(20回)			
街頭における犯罪の減少に向けた、地域、警察、その他関係団体と	〇交通安全、自転車のマナーアップ及び放置自転車対策			
連携した啓発活動を実施する。	•交通安全大会(2回)			
・街頭における犯罪の抑止と子どもの安全をはかるために防犯カメラ	・地域、警察、その他関係団体と連携した交通安全啓発(30回)			
の維持管理等を行う。	・自転車マナー街頭啓発(12回)			
・地域防犯力の強化として、警察と協議のうえ防犯上必要とされる個	•交通安全教室(20回)			
所に防犯カメラを設置する。(令和5年度設置予定2台分)	・7駅周辺の放置自転車撤去の実施(161回)			
〇交通安全、自転車のマナーアップ及び放置自転車対策				
・地域、警察、関係団体等と連携し、「交通事故をなくす運動旭区推進				
本部」を主体として、「withコロナ」を踏まえた「非接触型啓発」などの				
手法による街頭啓発等を実施する。				
・駅や中心市街地の特性を踏まえた効率的な放置自転車の撤去を実				
施する(区長権限建設局実施、撤去対象駅:7駅)。				
前年度までの実績	課題			
〇防犯対策	区内の「大阪重点犯罪」の発生件数は目標を達成しているが、「大阪			
・青色防犯パトロール (3年度226回、4年度66.5回)	重点犯罪」のうち特殊詐欺発生件数が令和4年36件、令和5年42件と			
・子どもの安全巡回パトロール (3年度175回、4年度183.5回)	増加傾向にある。			
・区民協働による自転車盗難防止と旭警察署との合同ひったくり防止				
キャンペーン(3年度6回、4年度0回)				
・防犯教室事業 (3年度10回、4年度12回)				
・警察・大工大女子学生と女性の犯罪被害防止等にかかる合同啓発				
(3年度・4年度なし)				
・防犯カメラ設置(3年度 4台、4年度 4台) 〇交通安全、自転車のマナーアップ及び放置自転車対策	改善策			
□○父通女宝、日転単のマナーアツノ及び放直日転単対策 □・交通安全大会 (3年度・4年度0回)	警察や地域などと連携し、街頭啓発活動などを行うことにより、特殊			
・区民参加の街頭啓発等 (3年度・4年度0回)	詐欺による被害を防止する。			
・自転車のマナーアップや放置自転車対策としての啓発(3年度10				
回、4年度10回)				
・自転車検問と指導(3年度34回、4年度34回)				
・自転車関連の内容を中心とした交通安全教室(子ども、高齢者、子				
育て世代)の開催(3年度1回、4年度3回)				
17 CE 17 COME (0 1 /2 CE)				